

外国人の目で見ただ 海女の魅力を紹介

鳥羽市のホテルで働く中国人の李相海さん(44)が、写真入りエッセー集「現代の海女 伊勢志摩の海女に魅せられて」を自費出版した。外国人から見た「日本の原風景」への共感をつづっている。

鳥羽の李さんが写真エッセー

李さんは遼寧省の農村部出身。歴史の教師を辞めて、三重大学に留学。卒業後、メーカー勤務を経て、2007年に鳥羽シーサイドホテルに入った。海女に関心を持ったのは翌08年、映画「潮騒」の舞台になった神島を訪れ、中国でも有名な主演山口百恵



フォトエッセーを出した李相海さん
＝鳥羽市安楽島町

さんの海女姿の写真を見たのがきっかけ。鳥羽や志摩で続く海女の祭礼や漁を見て回るようになった。レンズを通して海女の顔に深く刻まれたしわを見て、「10年以上会っていないなかった母と重なった」と振り返る。

本では、鳥羽市国崎町の御潜神事、菅島のしろんご祭り、志摩市志摩町の潮かけ祭りなどの伝統行事を取り上げ、「私のような外国人から見れば日本の財産そのもの」とつづった。岩手県や千葉県の海女イベントにも出掛けて取材したほか、鳥羽ではベテラン海女に会って、人生や暮らしについて語ってもらった。

「身一つで海に潜る海女の姿は古くから変わらないう、時代を超えた存在。これからも残ってほしい」と李さん。最近、韓国で会った母にも1冊プレゼントしたという。

A5判102ページで、1200円(税別)。インターネット書店などで扱う。26日まで写真展「海女礼賛」

朝日新聞(三重)

を鳥羽市大明町のショッピングプラザハローの催事場で開いている。入場無料。(荻野好弘)